

第5学年1組 国語科学習指導案

日 時：令和5年11月29日（水）5校時

場 所：浜田市立松原小学校 5年1組教室

指導者：教 諭

支援者：学校司書

1 単元名 「和の文化 物知り帖」を作ろう

2 教材名 共通学習材「和の文化を受け継ぐ——和菓子をさぐる」 東京書籍5年
他 ブックリストを参照

3 学 級 松原小学校 5年1組 21名 ちから学級 1名

4 単元づくりの構想

本単元で付けたい力

- ① 文章と資料を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする力。
- ② 目的に応じて資料を活用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力。

情報活用能力指導の観点・系統性

- 情報の収集 **f** 調査をする
→5年では 課題に応じた資料・情報の収集
- 情報と情報の関係
l 情報を整理・分析する
→5年では 複数の資料の中から課題解決に必要なものを選ぶ
- 情報の整理 **m** まとめる
→5年では 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

教材の特質

共通学習材「和の文化を受けつぐ——和菓子をさぐる」は、伝統的な文化に関するものの中でも、児童が想起しやすい和菓子を題材としており、序論・本論・結論の構成が明確な文章である。また、和菓子を「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人々」の三つの観点から説明するという構成は、その後の調べ学習や調べたことを報告する活動へとつなげやすい。さらに、説明にあわせて、写真や図表などの資料が用いられており、報告の文章をまとめる際の資料の活用につなげることができる。

本単元に関わる子どもの実態

省略

研究の重点とのかかわり

(1) 視点1 情報活用能力の系統的指導

① 学習の見通しをもたせる

学習計画を全員で確認し、単元のゴール「和の文化 物知り帖」の作成に向けて、見通しをもって学習を進めていけるようにしたい。また、本単元で付けたい力「必要な情報を見つける」「資料を使って説明する」を毎時間確認し、子どもたち自身が、今、何のためにこの学習に取り組んでいるのかを理解し、付けたい力を意識しながら学習に向かうことができるようにしたい。

② 松原小学び方指導体系表とのかかわり

本単元では、主に「f 調査をする・l 情報を整理・分析する・m まとめる」の観点を取り上げている。f は課題（ここではグループで決めた題材）に応じ、グループで手分けして資料・情報を収集する場面、l はグループで集めた情報を出し合い、分類しながら整理し、必要なものを選ぶ場面、m は資料を用いて、考えが伝わるように書き表し方を工夫して「和の文化 物知り帖」を作成する場面にあたる。4年生までに付けてきた力と、6年生で付けたい力を意識し、指導にあたっていきたい。

(2) 視点2 要約学習の実践

① 全校「要約トレーニング」の実践

今年度から、全校で週1回「要約学習」に取り組んでいる。3年生以上では、【文章を読んでキーワードをつかむ→図式化する→図式をもとに相手に説明する→話したことを文章にする】という手順で行っている。また、本学級では、ペアでの要約学習にも挑戦している。本単元では、教材文の読み取りと、グループで調べた情報をまとめる際に、要約学習を取り入れる。

② 各教科、領域等での活用

2学期からは理科や社会などの学習にも広げ、情報を整理する手段として、図式化を活用している。社会科では、教科書の本文や写真・グラフ・地図などの資料から読み取ったことを図式化し、分かったことをグループで話し合いながらまとめる活動を取り入れている。また、漁港見学に出かけた際は、説明を聞いて図式化しながらメモをとっている児童もみられた。

(3) 視点3 言語活動、言語環境の充実

語彙量を増やすために、日頃から辞書を引き、分からない言葉の意味を調べる活動に取り組んでいる。同じ言葉でも、辞書の種類によって記述に違いがあることにも着目するようにしている。また、学校司書と連携し、読書環境の充実を図ったり、調べ学習のための図書資料の選定を行ったりしている。本単元では、和の文化に関する図書資料を集めたブックトラックを教室に置き、いつでも手に取れるようにしている。

6 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 【知識及び技能】(2) イ
- (2) 目的に応じて資料を活用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】B(1) エ
- (3) 文章と資料を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1) ウ
- (4) 学習の見通しをもって、積極的に必要な情報を見付けたり、分かったことや考えたことを伝えたりしながら、「和の文化 物知り帖」を作ろうとする。 【学びに向かう力・人間性等】

7 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関連付けの仕方を理解している。 (2) イ	①引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。B(1) エ ②目的に応じて、文章と資料を結びつけるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 C(1) ウ	①学習の見通しをもって、積極的に必要な情報を見付けたり、分かったことや考えたことを伝えたりしながら、「和の文化 物知り帖」を作ろうとする。

8 単元の指導計画（全15時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
第一次	1	・学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しをもつ。	・学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し、学習の見通しが持てるようにする。 ・並行して、和の文化に関する本を読んでいくことを伝える。	
第二次	2	「和の文化を受けつぐ」の説明の仕方について考える ・教材文を読み、筆者の「和の文化」に対する考えや文章構成を読み取る。 ・筆者が和菓子についてどのような観点から説明しているか、どのように資料を活用しているかを考える。	・「和の文化 物知り帖」で説明の文を書くために教材文を読むという目的を明確にする。 ・「序論・本論・結論」の構成など、既習事項を想起させる。 ・本論の内容を、要約学習のスキルを使って読み取っていく（ペア）。 ・文章構成や資料の効果的な活用の仕方など、物知り帖作りに生かせる「コツ」を確認し、物知り帖作りに生かせるようにする。	【知識・技能①】 発言・観察・ワークシート ・教材文や資料を読み進めている様子の確認 【思考・判断・表現②】 観察・ワークシート ・図式化し、伝えたり、書いたりしている内容の確認 【思考・判断・表現①】 発言・観察・ワークシート ・文章化した内容や、原稿の確認 【主体的に学習に取り組む態度①】 観察・ワークシート ・よりよい文章にするために、友達と関わりながら書き表し方を工夫しようとしている姿の確認
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8	自分たちで選んだ「和の文化」について、グループごとに調べる。 ・取り上げる題材を決め、調べる計画を立てる。 ・手分けして情報を集める	・計画の立て方を確認し、物知り帖完成までの見通しが持てるようにする。 ・付箋に情報を書きためていく際は、付箋の書き方や、出典についての確認を行う。	
	9			
	10			
	11	「和の文化 物知り帖」を作る。 ・情報を整理する ・構成を考える ・文章を書く ・集めた文章をまとめ、物知り帖を仕上げる	・情報を整理して観点（見出し）を決め、伝えたい内容に応じて必要な情報を選んでいくことを確認する。 ・要約学習のスキルを使って、資料から読み取ったことを文章化していく。 ・教材文の読み取りで見付けた「コツ」を意識して書くように伝える。	
	12			
	13			
	14			
	第三次	15	・互いの「和の文化 物知り帖」を紹介し合い、学習のまとめをする。	

9 本時の指導（11／15 時間目）

（1）本時のねらい

和の文化について、文章と資料を結び付けるなどして必要な情報を見付け、伝えることができる。
【思考力、判断力、表現力等】C（1）ウ

（2）本時の展開

学習活動	・教師の支援	【評 価】
1. 本時の課題をつかむ。	・本時のめあてと学習の進め方を確認する。	
集めた情報をもとに、説明の文章を考えよう		
2. 集めた情報をまとめていく。	・要約学習のスキルを活用して考えていくことを確認する。 ・分担の仕方によって、ペアで活動してもよいことにする。 ・教材文の読み取りで見付けた「コツ」について確認し、文章を考える時に意識できるようにする。 ・これまでに整理した情報をもとにまとめるが、必要に応じてグループの友達に聞いたり、図書資料を確認したりしてもよいことを伝える。	
3. グループの友達と伝え合う。	・図式化したものを、グループの友達と伝え合う。 ・「コツ」を意識しながら伝えたり聞いたりし、よりよい説明になるようにアドバイスし合うようにする。 ・相手を変えてくり返し伝え、自信をもって説明できるようにする。その際は、グループの友達の他に、近くの先生に聞いてもらってもよいことにする。	
4. 伝えた内容を文章に書く。	・文章は敬体で書くことを確認する。	【思考・判断・表現②】<u>発言・観察・ワークシート</u> ・和の文化について集めた情報をもとに、必要な部分を見付けて伝えている。
5. 学習を振り返る。	・学習を振り返り、本時の学びを実感させたり、次時の課題を確認したりして学習のまとめとする。	

10 本時の評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
・和の文化についての資料を読み、文章と資料を結びつけながら必要な部分を見付け、さらに分かりやすくなるように伝えたり、書いたりしている。 ・書いた文章を見直したり、友達にアドバイスしたりしている。	・和の文化についての資料を読み、文章と資料を結びつけながら必要な部分を見付けて伝えたり、書いたりしている。	・集めた情報の中から、必要な部分を一緒に確認する。 ・図式化のポイントを一緒に確認したり、ペアでの活動を取り入れたりして、まとめていけるようにする。 ・文章化する時には、マス目の用紙を用意する。

Ⅰ Ⅰ 研究協議の記録

図式化について

- ・資料から短い言葉でキーワードを書き抜き、矢印・吹き出し等も使いながら情報を関連付けている姿が見られ、要約学習の積み重ねの成果が感じられた。しかし、中には図式の項目同士のつながりが見えにくいものや、情報の羅列になってしまっているものもあった。
- ・必要な情報を短い言葉で抜き出すことが難しい児童も見受けられたが、ペアで相談することで図式化に取り組めていた。苦手な児童が、個人でも要約する力をつけて行くには、どのように対応していけばよいのだろうか。
- ・情報(資料)が多すぎて図式化に時間がかかり、伝え合いの時間があまりとれなかったグループもあった。必要な情報だけ取り出すために伝えたいことを絞るか、資料の量を絞るかにした方がよかった。
- ・情報を付箋に書き出す時間と、図式化する時間があり二度手間に感じた。図式化に付箋を使うとよいのではないだろうか。
- ・資料の読み間違いも見受けられたので、細かい部分は確認が必要になってくる。

伝え方(説明・文章化)について

- ・図式を見ながらくり返し言葉にして伝える中で、聞き手からのアドバイスをもらいながら改善しようとしていた。聞き手が大人の場合はうまくいっていたが、子ども同士で聞きあう中でのアドバイスがもっとでてくるとよかった。聞き手の子どもも、アドバイスをしなければ、という意識をもってしっかりと聞くことができるのではないか。
- ・説明する時に、どの順番で話すかを考えていたり、図式に数字を書いていたりと、順序を意識している様子があった。
- ・説明した後に、資料に戻って確認したり図式に書き込みをしたりすることで、次の説明がレベルアップしていた。また、説明していて分からなくなった単語があった時にも、資料に戻って確認し、次の説明につなげていた。
- ・相手に話しながら伝えることで、自分が本当に内容を理解できているかの再確認になっていたのではないだろうか。図書資料へ立ち返って調べ、より理解を深めるきっかけとなっていた。
- ・ペアでの取り組みでは、説明の際に伝えたい情報の重複がみられた。二人で情報を共有・分担してから、説明できるようにするとよかった。
- ・伝え方を客観的にみるためには、タブレットで話す姿を撮影してみるなどの工夫も取り入れてみるとよい。
- ・文章化に進んだ児童も多かったが、作業量が多かったように思う。書く活動は次の時間でもよかったのではないか。

指導・講評

- ・図式から説明への流れは、子どもたちが「できた」という達成感を感じることができたのではないか。試行錯誤しながら、図式と説明を行き来することで、よりよい文章につなげていくことができる。更に、お互いに説明を聞き合い、内容について吟味し合うことができるようになっていくとよい。
- ・観点を決めて必要な情報を集める際に、子どもたちは自分の興味のあることや気になる方にずれていってしまう事もある。自分の興味や思いではなく、内容や観点到に沿って必要な情報に迫ることができているかを、子どもたち自身がどう意識していくかが大切。
- ・要約学習のスキルは身につけてきているので、今後は、単に要約学習のスキルアップではなく、国語の学習としてのねらいや付けたい力のために、要約学習を活用するという視点をもつことが大切。

Ⅰ Ⅱ 考察(成果・課題)

学習の見通しについて

「単元計画表」を全員に配布し、毎時間、学習内容の確認を行った。この時間にどんな学習を行うかの確

認はもちろん、今後の活動の見通しももつことができた。また、ふり返りの欄を設けて学んだことや身についた力を記入することで、これまでにつけた力を次時に生かそうと意識する児童もみられた。単元全体の見通しと、1時間ごとの見通しを共有したことは、児童が見通しをもって学習をすすめていく上で有効だったと考える。

図書資料の選定について

事前に、並行読書のために和の文化にまつわる本を図書館司書に準備してもらった。その際に、先で実際に調べる和の文化を決めていくことを踏まえ、「歴史」「職人」など、調べる観点にあった内容が記載されているものや、複数の本で調べることができるものに種類を絞ってもらった。さらに、実際に調べたい和の文化が決まり、子どもたちがもっと詳しく調べたいと思った場合は、追加で図書を用意してもらった。また、ポプラディアを2セット常備しておき、まず概念として「〇〇とは」を調べてから、情報を集めていくようにした。選んだ和の文化によっては、どうしても図書資料の数や内容に差があったが、ポプラディアを活用し、うまく関連事項を調べているグループもあった。

思考ツールの活用について

本單元では、ピラミッドチャート、Xチャートを活用した。ピラミッドチャートは、グループで調べる和の文化を決定する際に活用した。それぞれが調べたい和の文化を一つに決める際、ピラミッドチャートに情報が視覚的に整理されていることで、言葉だけの話し合いよりも意見が多く出たり、説得力のある説明につながったりしていた。Xチャートは、資料から集めたたくさんの情報を、観点ごとに整理する際に活用した。必要な情報を整理・分類することはもちろん、必要ではない情報を見だし、取捨選択することもできた。また、Xチャートの観点や、付箋のまとまりごとに付けた言葉が、先での図式化・文章化の見出しや小見出しにもつながっていった。

ペア活動について

文章を読んで図式化する際に、文章の抜き書きになってしまう児童や、大事な部分を見付けることが苦手な児童がいたため、ペアでの活動を取り入れた。ペアで活動することで、友達と一緒に文章の中のどの言葉に線を引いたり丸で囲んだりするのかを確認でき、また、どのように図式化するのも経験でき、安心して学習をすすめることができたように感じる。その後の要約学習では、自分なりにキーワードを見付け、図式を書いたり、短くても文章化したりできるようになってきている。しかし、図式も文章も、まだまだポイントを押さえた要約とはいえない。要点を押さえた図式や文章を紹介して全員で共有したり、図式や文章について、ペアでアドバイスをし合ったりすることで、個々の力を伸ばしていけるようにしたい。

要約学習について

今回の学習では、資料を読み取り情報をまとめる際に要約学習を取り入れた。普段の朝学習での取り組みよりも時間をかけ、じっくり取り組むことができた。図式化→説明を何度も繰り返すことで、自分の説明している内容をよりよくしようと見直したり、聞き手からのアドバイスを取り入れたりしていた。また、よりよくするためのコツ（順序を表す言葉やつなぐ言葉を入れるなど）を全体で確認したことが、その後の学習にも生かされてきている。例えば、図式のまとまりにあらかじめ番号を付けたり、矢印と共につなぐ言葉を取り入れたりするようになり、その結果、まとまりのある図式が書けるようになった。また、要約学習のみならず、作文や感想を書く時にも、接続詞を意識的に使おうとする児童が増え、文章の構成を少しずつ意識して書くことができるようになってきている。図式化→説明→文章化の流れが一度で終わるのではなく、時にはそれぞれを行き来しながら、自分の書いたものや説明をふり返る時間が重要だと感じた。今後、要約学習を継続していく中でも、立ち止まって見直す時間を取り入れながら、児童が文を読み取る力や文章を書く力を身に付けていけるようにしていきたい。